

災害時における利根川兩岸3市3町

相互応援に関する協定締結式



2月4日に、災害時における「利根川兩岸3市3町相互応援に関する協定締結式」を明和町役場にて執り行いました。

「利根川兩岸3市3町」とは、利根川を挟んだ群馬県側（左岸）の板倉町、千代田町、明和町の3町と埼玉県側（右岸）の加須市、羽生市、行田市の3市のことです。この県域を越えた3市3町で災害時に相互応援を円滑に遂行するための必要事項について協定を締結しました。つまり、もしもの場合にはお互いに助け合うという首長同士の同意を取り付けたということになります。



【挨拶をする明和町長（私）】

前回コラムでも触れましたが、清水寺で毎年行われるその年の世相を表した漢字が昨年は「災」であったように、近年の日本そして世界各地の自然災害の発生頻度は尋常ではありません。特に昨年においては、2月の北陸豪雪に始まり、6月の大阪北部地震、平成最悪の豪雨被害といわれ中国地方を中心に220人もの死者を出した7月上旬の西日本豪雨、8月の記録的猛暑、9月の北海道胆振東部地震や大型台風の相次ぐ発生上陸と、これまでに無い間隔で災害が襲ってきました。

「天災は忘れた頃にやってくる」これは、科学者の寺田寅彦が残した有名な言葉ですが、今はこの言葉は当てはまりません。まさに「天災は次々にやってくる」時代へと変化いたしました。要因はいろいろありますが、主にいわれているものは2つあり、1つ目は、「地球温暖化」によって、50年に一度のはずの記録的大雨の多発や、台風が大型化していること。2つ目は、地球そのものが殻^{かく}の活動期に入ったため、各地で地震や火山の噴火が頻発してしまっているとのことです。

今回の利根川を挟んだ3市3町は、昭和22年9月のカスリーン台風を始めとする幾多の風水害に見舞われた地域であるため、今回の協定は大変意義のあるものだと感じています。また、この地域は東北自動車道、国道122号、125号、354号等の主要幹線道路や鉄道による交通網にも恵まれた地域でもあります。

こうした生活圏を共にする3市3町が連携し、地域住民の安全安心と逃げ遅れゼロをめざし、より現実的な防災・減災対策を推進してまいりたいと考えております。まずはその第一歩を踏み出しました。今後も普段から3市3町で情報を共有し合いながら切磋琢磨し異常時の協力体制に結びつけていきます。ご期待ください！



【左より千代田町の高橋町長、板倉町の栗原町長、明和町の私
加須市の大橋市長、行田市の工藤市長、羽生市の河田市長】

平成31年 2月14日

明和町長

富塚もとすけ